令和３年度第３回大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会概要

〇日　　時：令和４年２月９日（水）17時00分～19時00分

〇場　　所：大阪府咲洲庁舎（さきしまコスモタワー）23階　中会議室

〇出席委員：国枝会長、相原委員（リモート出席）、阿多委員（リモート出席）、清水委員、

玉置委員、三木委員、山田委員

〇事務局　：府民文化部副理事、万博公園事務所　ほか

Ⅰ　開会

Ⅱ　議題

**〇議題１　緑整備部会における審議状況の報告**

（資料に基づいて事務局から説明）

（国枝会長）事務局からの報告について、質問などがあればお願いします。

（山田委員）補足で申し上げると、50年が経って森が相当大きくなり、いわゆる老朽化ということかもしれないが、実際に木が倒れるような事故が起きている。自然の森であれば木が倒れても構わないが、公園なので木が倒れて怪我をすると管理者の責任になる。そういうこともあり、放っておくのは相当まずいだろうということで、人の手を加えて、いわゆる里山林のような森を、人がアクセスする場所を作っていこうと作業を進めている。資料に入れたのはモデルエリアAで、左側のボサボサにした森をモデルエリアの右側の森のように空いてやり、スカッとした森にしていく。

魅力づくりについては、文化財。太陽の塔も登録有形文化財になったので、それと同じように日本庭園も登録記念物への登録を目指すことをベースにいろいろと作業をしている。

（玉置委員）２点ある。一点は万博公園の森。里山は非常に重要だと思っている。例えば、蛍であるとか、そういうものは自然の森では逆に発生しない。里山だから生まれる、里山文化がある。どれぐらい人の手が入るのか。間引きの話があったが、人の営みも本当は入った方が良いと思うが、まさかそこに小屋を作って人が住むわけにはいかない。人の手が入るというのがどの程度のことなのか。人の営みもあったら面白いなと思ったりする気持ちもある。

もう１点は日本庭園。質問というほどでもないが、文化財の登録は非常に重要だと思っている。僕も何度か日本庭園を歩いており、非常にユニークな施設だと思っているが、実際、文化財登録の勝ち目はどれぐらいあるのか。要するにどれくらい貴重なのか。僕は好きだが、文化財の登録として、今充分であるならばいいけれども、もし確実に登録してもらうために、さらにブラッシュアップが必要だったら、それも考えなければならないのか、その２点について伺いたい。

（事務局）　まず人の営みというところで、森の中で暮らすということはないが、生産の森といって、田畑のゾーンも一部作っている。緑の利用という観点から、いろんな取り組みを今後やっていけたらいいと思っている。

文化財登録について、登録文化財の手続きとしては届出になる。これだけの日本庭園、一定クオリティーがあるものなので、届出すれば登録されるのではないかという意見は頂いている。さらにその先の文化財保護法による名勝になってくると、文化庁の調査によって価値が認められれば、声がかかるということになる。そのあたりはまだまだこれからというところと思っている。

（清水委員）２点ある。まず万博の森の取り組みについて、里山という考え方を取り入れることはとても良いと思う。ボランティアが入って森づくりを一緒にしていこうという説明があったが、この視点は重要であると考える。公園側からはボランティアにどうアプロ―チをして何に関わってもらうのか、またボランティア側の方たちはどう関わっていけるのだろうか。この視点をビジョンの中に入れていく必要があると考える。その点についてもう少し詳しく教えてほしい。

日本庭園だが、保存と活用において、保存に関しては上手く行われているが、活用に関しては少しバリエーションが少ない、利用のされ方が固定されているように感じる。文化財登録されることにより、ますます保全が重要視され、活用が限定されないだろうか。この計画では、活用を促し、多くの人に利用してもらえるような工夫が見えにくい。この点についても教えてほしい。

（事務局）森づくりのボランティアについて、現在いろいろなボランティアが自然学習館を中心に活動している。自然観察や工作などのボランティアであり、実際に木を切るなどの作業については今後検討することになる。モデルエリアの中で施業している内容、どれくらいの人員、作業ボリュームになるのか等検証しながら、どういった形で入ってもらえるか、施業内容と並行して今後検討していく。

日本庭園について、登録記念物になると権威が上がるような方向になるので、より利用しやすい形にというところでは、現状、指定管理者がいろいろ工夫しており、２月11日からの梅まつりでは茶室で呈茶を提供したり、冬にはライトアップしたり、蛍の取り組みもしている。いろいろな利用促進の取り組みは、現在も行われている。今後より一層、将来ビジョンの検討の中で工夫していきたいと思っている。

（清水委員）イベントも行われているが、バリエーションが少なく、固定化されている感じがする。

（三木委員）僕も里山的なものはいいと思っている。まず人の手が入るっていうことは、結構手のかかることなので、どれぐらい実現可能なのかが少し気になる。奈良県の室生寺の近くにある室生山上公園芸術の森は参考になると思う。大阪万博の「修景彫刻」にも参加した室生出身の彫刻家井上武吉が構想して、それを引き継ぐ形でイスラエル出身の世界的彫刻家、ダニ・カラヴァンが作った。里山のようにするということで、棚田を作って田植え、収穫をしていたが、猪・鹿による食害がひどいらしく、現在はしてないかもしれない。人の手が入るということは恒常的に手がかかるものなので、ある程度設計して、それがずっと維持できるのかということが少し気になる。

日本庭園に関して、アピールの仕方が難しいと思っている。もちろん京都の庭園と比べたらかなり違うと思うが、文化財登録するとしてどういうところが売りで、評価されているのか、客観的な評価が知りたい。庭園としては戦後の大阪の都市公園計画を担ったと田治六郎を中心としたメンバーによる、面白い試みだったと思うが、どういうところが庭園史の中で評価されているのか、アピールすべきところなのか知りたい。

今の時代なので、ダニ・カラヴァンの公園は結構前に建てられているが、やたらと若者が来て、写真のスポットになっている。凄く遠いところだが、みんなが集まっている。インスタみたいなものが必ずいいとは限らないが、万博公園でも「八景」のように視点場を決めているので、そのような庭園の見所やみんなが来て撮りに行きたいというような、場所を作らないとダメなのかなと思いました。

**○議題２　新たな将来ビジョンの策定について**

（資料に基づいて事務局から説明）

**・具体的な取組み内容について**

**（１）ダイバーシティ＆インクルージョン**

（玉置委員）取組み案について、一つ目の誰もが安全安心に利用できる公園は、ぜひ進めてほしい。

二つ目の公園づくりについてナショナル・デー、スペシャル・デー[[1]](#footnote-2)、レインボーパレード[[2]](#footnote-3)など、指定管理者との話になるかと思うが、指定管理者的には集客イベントをやらなければという思いがあると思う。ナショナル・デーやスペシャル・デーの再現、LGBT[[3]](#footnote-4)、特にゲイパレードのようなものは、やはり、大阪府の方からやりましょうと言わないと、事業者だけではやりにくいと思うので、是非提案していただきたい。

三つ目について、いい話だなと思いながらも、具体的なことを言っていないと思っており、自由気ままに仕事、読書、コミュニケーションの場として公園の活用というのは、屋外でするということか、ワーケーション[[4]](#footnote-5)もするのか、分かりにくい。具体的に教えてほしい。

（事務局）ナショナル・デー、スペシャル・デー、レインボーパレードについては、委員がおっしゃる通り、今後の取り組みや具体の公園運営について指定管理者と十分な協議が必要と考えている。

三つ目は前回、阿多委員、相原委員、山田委員から意見があった屋外の活用をイメージしている。具体的な例としては、アメリカのブライアント・パークでは、机と椅子があり、公園に来た人たちが自由に好きなところに運んで使える。読書する人もいれば、勉強する人、仕事をする人もいる。一日の終わりには、NPOが椅子の回収をする。

ほかに良いアイディアがあれば、どんどんいただきたい。

（玉置委員）ニューヨークのブライアント・パークは先進事例でよく取り上げられる公園。僕が知っている例でいうと、今、佐賀県はすごくワーケーションに力を入れていて、嬉野温泉の公園は、屋外だが、Wi-Fi設備を整えている。そういうことが万博公園でも可能。当然、Wi-Fiが無いと仕事はできない。

（事務局）万博公園にも、Wi-Fiは整備されているが、電波状況が悪いところもある。また屋外となれば、季節によって、例えば梅雨の時期はどうするかなど、検討しなければならないこともある。

（清水委員）まず、ダイバーシティ・アンド・インクルージョンということで、気になったのは、主な取組みの方向性について書かれた三行目について。直接公園に行かなくても楽しめるということに、私はこだわっていたが、そういった層も、公園を利用できる、公園に関わっていける、国籍やバリアを超えて参加できるものがあればいいと思う。三行目に記載はあるが、中身の取組み案を見ると、具体的には書かれていない。バーチャル的な技術を利用したりして、直接公園に行かなくてもできることを具体的な例で入れてもらいたい。今の取り組みは、公園に行った人のものしか書かれていないので、行かなくても参加できて楽しめるという考え方を取り入れてほしい。

（事務局）今までの議論で、来園しても繋がる、来園しなくても繋がるとあり、具体的な手段としてオンライン観光が出ていたが、さらにメタバース[[5]](#footnote-6)なども検討する必要があるかもしれない。

（阿多委員）普段使いということで、僕は元々ワーケーションをイメージしていたが、考えを突き詰めていくと、利用シーンは、来た人がどう使うかという自由な発想をどれだけ尊重出来るかに尽きる。公園がどう使われるかは仮定せずに、突拍子もない使い方にある種、期待することもあっていいと感じた。前回、気ままにと言ったキーワードを汲んでもらったのかと思う。

あともう一つ、せっかくバーチャル、デジタルを使うのであるならば、一つ考えられないかなと思っているのは、人が歩いて公園を見て回るだけでは見えないところを見せる。公園の違った側面を、テクノロジーを使って見せる。できるかどうかわからないが、例えば、ドローンを飛ばして上から見た公園の写真、映像を撮るとか、普段見えないところに光を当てて、人の目線だけでは体感できないようなものを作ってもいい。

（事務局）押し付けでなく、ブライアント・パークのように、逆にどんな使い方ができるのだろうということで、例えば、駅前にアリーナが出来た場合、これまで公園に足を運ばなかったような人々も来る中で、もっと自由にフレキシブルにいろんな楽しみ方してもらうということは、視点として欠かせないと思う。

バーチャルということで、ドローンが良いのかわからないが、具体的には、万博の森など、通常の来園者ではなかなかアクセスできないところにもテクノロジーの力を使ってアクセスする取り組みも必要だと思う。

（三木委員）デジタル化のところにも関係すると思うが、DXというのはまだまだ抽象的で、先ほど言われていたように、メタバースもこれからかなり盛んになる。少し広がりを持たせておいたほうがいいと思う。

オンラインで参加できるということで言うと、現状の万博公園のアーカイブ、googleマップみたいに中まで全部、記録を取って、それを更新していくようにしたほうが良いと思う。その方が、どのように変わっていったかもわかる。今は手書きの地図しかないので、万博公園に行く前に「ここはこういうところがある」ということを事前に確認できるように。今は、3Dで全体を記録する方法もあり、それをオンラインで巡ることもできるので、ハンディキャップがある人も巡ることもできるし、遠方から来場する人もこことここを回ろうということも先に考えられる。そういう3Dのデジタルアーカイブを作ってもいいと思う。

ナショナル・デーやスペシャル・デーは、当時、世界各国から来るということで、一日一日、国の日ということでイベントをしていた。今は世界各国の人が常に来る状況ではないので難しいかもしれないが、地域密着型になっていく方向と、国際的になるという方向があると思うので、どの辺が国際的で、どの辺が地域密着なのか、方向性をそれぞれではっきりさせた方が良いと思った。

（事務局）メタバースは、最近、新聞でもよく取り上げられるようになった。DX自体がこれから広がりを持っていくものなので、視野を広げる形で位置づけたい。

二つ目のデジタルアーカイブについて、以前、清水委員から、オンライン観光をする一つの利点として、あらかじめオンラインで旅行することによって、地域の魅力を知った上で、実際に現地に行く、あらかじめ地域のファンになって、現場で楽しむことがあると教えてもらった。まさにそういうことだと思っている。

三つ目について、ご指摘の通りだと思う。いわゆる地域密着型の取り組みと、国際的な取り組み。吹田市千里丘陵にある公園として地域密着型の取り組み、地域に繋がっていくことと、万国博覧会を記念する公園としての国際的な取り組み、という視点での位置づけをした方が良いということですね。

（国枝会長）ハンディキャップの解消について、公園での事例、先進事例はあるか。こういうふうにすると使いやすいとか、例えば車椅子で全部回れるとか。書いてあることは良いと思うが、具体的なものに欠けているのでは。

（事務局）具体例も含めて、今後詰めていきたい。公園の最新事例ではないが、例えば車椅子も自動運転車椅子も開発されているので、さまざまなものを使って、ハンディキャップを解消する試みは行われているようだ。

（国枝会長）海外事例だと、高齢者やハンディキャップがある人のためのモビリティが世界遺産地域などでは重要視されている。モビリティに関して、導入する前にアンケートを取るなどしているそうなので、具体的な先進事例があれば教えてほしい。

（相原委員）補足として、社会科見学に来る前にDXを使って事前学習など、バーチャル渋谷のようなものがあれば、効果的にできるのではないかと思った。公園に来る方と来ない方が、DXを使うことで、例えば天気が悪い日でも、良い天気を見ることもできる。そういった工夫もできると思う。

（事務局）屋外の公園なので、天気が悪い日は、来園者の数が少ないというのが悩みでもある。アバターという形で、来園しないけれども、公園を楽しんでもらえる仕組みは非常に大切だと思った。

**（２）SDGs**

（国枝会長）それでは、次の論点に移ります。次の論点はSDGsです。

（玉置委員）二番目のSTEAM教育[[6]](#footnote-7)に関しては、非常に今、活発に議論されているところだと思う。今回、2025年大阪・関西万博でも、８人のプロデューサーの一人、中島さち子さんが、STEAM教育を軸に、パビリオンのクラゲ館のアイディアを出している。

彼女は、2025年の万博はあくまで通過点で、日本のいろんな学校、あるいは世界の学校で、今も既に活動を始めている。2025年万博でなにかひとつ盛り上げて、そこで皆が交差することをやって、26年以降もそのSTEAM教育が続いていくと言っているので、2025年万博ともリンクしながら中島さん個人だけではなく、吹田の万博記念公園と連携できるようなことを、2025年を待たなくても、今年でも来年でも何かやっていけたら良いと思った。

（事務局）25万博とのつなぎこみともかかわってくるかと思うが、確かに、万博は通過点でしかなく、そこでいろんなものが交錯していく。STEAM教育という言葉で表現しているが、エコシステムの教育の場にするなど、いろんなご意見をいただいている。STEAM教育の専門家である中島先生とできるのであるならば、それはすごくいいことだと思う。

（山田委員）森の再生は以前の議論からの連続だが、突然、天体観測ドームというのがでてきた。これは今の議論の延長線上か。

（事務局）前回そういうご意見があった。天体観測ドームという表現ではなかったが、宇宙を見られるような望遠鏡という意見があった。万博の森の中で、宇宙観察ができれば、１つの森の活用だと考えている。

（山田委員）グランピングで流れ星が流れるようなイメージ。天体観測ができる場としての公園という話であれば現実的だと思うが、今の公園にいきなりドームを建てるのは不自然で、公園の活性化に役に立たない。言葉があまり適切ではないと思う。

（三木委員）前回の議論を補足すると、70年万博の時は、宇宙開発がかなりブームだったので、宇宙がテーマになっていた。それから50年経って、宇宙ビジネスが民間のものになったので、また再び宇宙ブームになっているということもあり、もう一度、宇宙への意識、地球への意識を学ぶ場として、望遠鏡を並べて皆で見るとか、そういう教育の場に使えるのではないかという意図での発言だった。

それ以外にも、STEAM教育も面白いと思う。万博公園には実際に場所があるので、エネルギーやエコシステムなどがあるが、実際に今、最前線で研究している研究者、企業と連携して、実際に何かをやる、トライアルする、そういうところに子供も参加する、何か実践できる場のほうが具体的で面白い。それはもちろん、研究者が入ってもいいと思うし、産学連携の教育の場を設定できるのではないかと思っている。

（阿多委員）一つ気になったのが、テーマの絞り込みで、11番目が持続可能都市だが、これだけで見ると万博公園単体の話になっており、持続可能都市には結びつきにくい。今後の話も一緒にしていかなければならないと思うが、アリーナや万博公園があって、そこを中心にいろんな活動をする新しいスタイルの都市が出来上がる。そこではある種、身近な公園が自然の教材として使えて、そして、それらを使って人々が健康的な活動をするためにいろんなことを学んで、実践して行く場であるということを、一つのコンセプトとしたまちになるからこそ、持続可能になると、私自身は理解をしている。これは都市と公園と、そういった文化と自然と歴史をどう動かし、新しいまちを作るか、そういうメッセージの中で、持続可能都市が表現できると伝わるのではないかと思う。

　（事務局）もともと70年万博は未来の実験都市と言われていた。大事な指摘であり、改めて整理する。

（清水委員）SDGsに関しては、全体的に現在ある問題を未来志向でどう考えていくかがまとまっていてと良いと思う。

取組み案として気になるのが、3つ目のウェルビーイング[[7]](#footnote-8)を実現できる公園づくりについて。子供たちや高齢者にターゲットを限定すると、ダイバーシティ・アンド・インクルージョンに反することになり、ウェルビーイングはこの範囲にとどまるものではないと思うので、あえてこの言葉を使うことはどうかと思う。ウェルビーイングはいろいろな人のためにあるものなので、文言を考えてほしい。

　　　　　　また記載方法として、対象とするSDGsの項目の番号が記載されている例は多いが、ダイバーシティ・アンド・インクルージョンの項目の中にも当てはめられるものもあると思うので、どう整理するのか考えてほしい。

（事務局）検討する。テーマ番号については、取り組みごとのゴール設定を検討している。

**（３）文化・スポーツの拠点**

（国枝会長）それでは、最後の論点、スポーツ文化の拠点に移っていきます。

（玉置委員）日本庭園の時のまとめにもなるが、活用が重要という意見もあった。僕が思いつくのは、成功した事例として、奈良の燈花会。燈花会は善光寺もしているが、奈良がスタート。京都の花灯路なども、日本庭園とすごく合う。京都は東山花灯路、嵐山花灯路をしている。あとは旧七夕。イベントで言うと、舞台の設置が難しいかもしれないが、薪能などできないか。大阪には大槻能楽堂や山本能楽堂などがあるが、ストリート能もある。後は茶会。大阪府市でもやっているかもしれないが、僕が知っている中では、東京都がしている江戸東京たてもの園での大茶会。これは成功していると思う。なので、日本庭園を使った大茶会ができればいいと思う。

　　　　　　アーバン・スポーツ[[8]](#footnote-9)全体についてこれまで言わせてもらったが、具体的なものでは、FISE WORLD SERIES HIROSHIMAは広島県がやっている。FISEはパリが本部だったと思うが、アーバン・スポーツはパリが中心となっている。2019年は広島県が正規に招致して、FISEの国際大会を行っていて、約10万人動員している。FISEの本格的なイベントでなくても、アーバン・スポーツは欧米でかなり大きなイベントも行われているので、これが万博公園でできたら面白いと思う。

（事務局）キャンドルイベントについては、数年前に地元の自治体などからコロナでできないので万博公園でしたいという要望があり、日本庭園ではないけれども実施した。また、日本庭園で大茶会ができれば、確かにインパクトがある。アーバン・スポーツについては、これからの時代、スポーツだけではなく、ファッションやライフスタイルなどいろいろなものがミックスされていく中で、取り組んでいくべきだと考えている。

（相原委員）アーバン・スポーツはこれから、大阪でも大きな大会ができたり、2月に長居公園にアーバン・スポーツ・パークができたりしており、チャンピオン大会がどこかでできれば良いと個人的に思っていたので、万博公園でもできるのではないかと思った。広がりとして、いろいろな競技が増えていくと想定されるので、部活動とは違い、コーチがいなくても自主的な形でしている所もあり、管理をどうするのか、フランスでは管理しすぎないという公共の考え方も出てきているので、それも面白いと思う。

　　　　　　文化で言うと、万博公園は文化度が高いので、2025年万博とつなげられるイベントがあると良いと思う。

（事務局）これまでの議論を通して、万博公園は特定の一つの分野に特化した公園ではなく、むしろプラットフォームのように、ここから様々な活動・メッセージを発信していく場として優れた場所であると認識している。また、25万博とのつなぎこみも、モビリティの活用や、イベントも含めて、制約もあるが何か連携できるものを探っていきたいと思う。

（清水委員）ここは理念ではなく具体的な話をしていたかと思うが、概念的なものとして使えるのではないかと思った。文化とスポーツは、文化は文化、スポーツはスポーツで、する人が分かれたり、取組み案が分かれていたりするが、未来志向で考えると、文化とスポーツは連携、融合していくと思うので、分けて書く必要はない。相乗効果というと分かれているイメージになるので、混ざり合い、融合しているイメージで、それが未来のより良い豊かな生活を提案するものにできないかと思う。先ほどプラットフォームという言葉があったが、そういうイメージが取組み案の中で書けると良いと思った。

（事務局）文化とスポーツは別々のものではなく、アーバン・スポーツなど今後ますます融合していき、ライフスタイルとなっていくので、スポーツ・文化の拠点としての理念にどう落とし込むか検討する。

（三木委員）僕もスポーツと文化を分ける必要はないと思っている。オリンピックは文化プログラムの計画がオリンピック憲章によって決まっていて、芸術的な開会式はその象徴だと思うが、次の万博ではスポーツのプログラムがあっても構わないし、融合していくと良いと思った。

　　　　日本庭園は過去から未来というコンセプトなので、このコンセプトに合った魅せ方があると思う。例えば、京都の時代祭は、過去から未来のファッションで練り歩くので、それに近いかもしれないが、コンセプトにあったものがあればいい。能も面白いと思う。山本能楽堂ではダムタイプの藤本隆行氏が照明を担当しているので、そういうものも面白いと思う。

　　　　　　25万博のつながりで言うと、70年万博はメディアアートの祭典であったので、ここで先駆けてすることもできる。また、25万博はバーチャル空間をたくさん作るということ。万博会場は半年間の仮設で消えてしまうものなので、レガシーとして残すために、メタバースのように、バーチャル空間を作る、もう一つの万博をあらかじめ作る意図があるそうなので、70年万博も一緒に作って、両方行き来できるような連携した試みを今からしていくと面白いと思う。

（事務局）オリンピックの中の文化プログラムのように、万博にスポーツプログラムがあると面白い。日本庭園の楽しみ方も、親しみやすい使われ方が面白い。また25万博において、70年万博のバーチャル空間を作ってくれればありがたい。また、万博の跡地利用のロールモデルを、新しいビジョンの中でもお示しできればよいと考えている。

（阿多委員）取り組みの中で、アートを活用し万博公園全体を楽しめる仕掛けづくりとあるが、前回の審議会で、万博公園には見どころがありすぎて一日で全部を回るのは大変という話をした。

また、人によって公園をどう楽しむかは違うので、アリーナも含めて色々なコンテンツができた時に如何にパッケージ化していくかを考える必要があると思う。画一的なパッケージではなく、一人一人の嗜好に基づいてパーソナライズされたトータルパッケージにできたらいいと思っていた。それはインクルージョンとも同様で、モビリティを活用しつつ、アプリを用いて、次はどこに行くかを紹介するなど、パーソナライズされたものをどれだけ提供できるかということをコンテンツに入れてほしいと思った。

（事務局）取り組みについては表現を含めて整理したい。

（玉置委員）三木委員の補足になるが、山本能楽堂のLED照明について、自然光をLEDで表現するという画期的な取り組み。山本能楽堂で2025年万博のプロデューサーの一人である大阪大学の石黒教授がアンドロイドを使ったロボット能をした。能、文楽、落語、古典芸能や伝統芸能とテクノロジーが交錯したものを万博公園でできると良いと思う。

（三木委員）能は、鉄鋼館でもやっていたので、鉄鋼館の舞台でもできれば面白いと思う。

**・マーケットサウンディング型市場調査の提案内容について**

（大阪府情報公開条例第８条第１項第１号及び第４号に該当するため非公開）

Ⅲ　閉会

（次回審議会予定について、事務局から連絡）

以上

1. ナショナル・デー/スペシャル・デー：万博に参加する国、州、都市などが、万博開催中の特定日に独自の式典やイベント実施するプログラム。国が主催するものをナショナル・デー、州や都市、国際機関などが主催するものをスペシャル・デーという。 [↑](#footnote-ref-2)
2. レインボーパレード：性の多様性をテーマとしたパレード。性の多様性を祝う人々が集い、互いに尊重しあうことを目的としたイベント。 [↑](#footnote-ref-3)
3. LGBT：Lesbian（レズビアン、同性を好きになる女性）、Gay（ゲイ、同性を好きになる男性）、Bisexual（バイセクシュアル、異性を好きになることや同性を好きになることもある人）、Transgender（トランスジェンダー、出生時に決定された性とは異なる性を自認する人）、それぞれの頭文字をとって「LGBT（エル・ジー・ビー・ティー）」と表現され、性的マイノリティーの総称として使われる。 [↑](#footnote-ref-4)
4. ワーケーション：Work(仕事)とVacation(休暇)を組み合わせた造語。テレワーク等を活用し、リゾート地や温泉地、国立公園等、普段の職場とは異なる場所で余暇を楽しみつつ仕事を行うこと。休暇主体と仕事主体の２つのパターンがある。 [↑](#footnote-ref-5)
5. メタバース：仮想空間内において、様々な領域のサービスやコンテンツを生産者から消費者へ提供するもの。 [↑](#footnote-ref-6)
6. STEAM教育；科学（Science）、技術（Technology）、工学（Engineering）、アート（Art）、数学（Mathematics）の頭文字を組み合わせた造語。各教科での学習を実社会での問題発見・解決にいかしていくための教科横断的な教育。 [↑](#footnote-ref-7)
7. ウェルビーイング：豊かさ、幸福。 [↑](#footnote-ref-8)
8. アーバン・スポーツ：「エクストリームスポーツの中で都市での開催が可能なもの」として、音楽、ファッションなど遊び感覚の高い若者文化とともに進化するものと捉えることができる。種目としては、ボルダリング、BMX、スラックライン、パルクール、スケートボード、３×３などを例として挙げることができるが、特に種目などを限定するものではない。 [↑](#footnote-ref-9)